

医療機関アンケート調査 調査結果

1 目的

現在、千葉市では市立青葉病院及び市立海浜病院を設置し、運営しているが、将来にわたり市立病院の使命を果たせるよう、市立病院が提供する医療内容や経営形態等今後の病院事業のあり方について、今年度より本格的な検討に着手している。

本アンケート調査は、市立病院が果たすべき役割や求められる機能、千葉市の救急医療体制や医療機関との連携のあり方などについて把握し、今後の活用資料とすることを目的として 1.救急医療、2.在宅医療、3.救急、在宅医療以外の地域医療を設問内容に設定し実施した。

2 調査概要

千葉市内の全 724 機関に調査票を送付し、238 医療機関から回答があった。(回収率 32.9%)

調査方法・回収結果	
調査対象	千葉市内の全ての医療機関（病院、診療所） 2018年9月末日時点で千葉市保健所へ届け出のあるもの。千葉市立の医療機関は除く。
調査時期	2018年11月16日(郵送日)～2018年12月17日(締切日)
調査方法	調査票による記入方式（郵送配布、郵送・電子メール回収）
配布数（回収数）	<p>全体：724施設（238施設、回収率32.9%）</p> <p>（病院・診療所別内訳）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院：44施設（19施設、回収率43.2%） ・無床診療所：572施設（190施設、回収率33.2%） ・有床診療所：36施設（11施設、回収率30.6%） ・その他：72施設（15施設、回収率20.8%） <p>※無記名回答3施設</p> <p>（行政区別内訳）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央区：215施設（71施設、回収率33.0%） ・花見川区：108施設（35施設、回収率32.4%） ・稲毛区：105施設（26施設、回収率24.8%） ・若葉区：90施設（23施設、回収率25.6%） ・緑区：103施設（42施設、回収率40.8%） ・美浜区：103施設（38施設、回収率36.9%） <p>※無記名回答3施設</p> <p>（医師会所属別内訳）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所属：530施設（196施設、回収率37.0%） ・無所属：194施設（39施設、回収率20.1%） <p>※無記名回答3施設</p> <p>（在宅療養支援別内訳）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院：9施設（5施設、回収率55.6%） ・診療所：64施設（32施設、回収率50.0%） ・該当なし：651施設（198施設、回収率30.4%） <p>※無記名回答3施設</p>

3 集計結果

(1) 救急医療の状況について

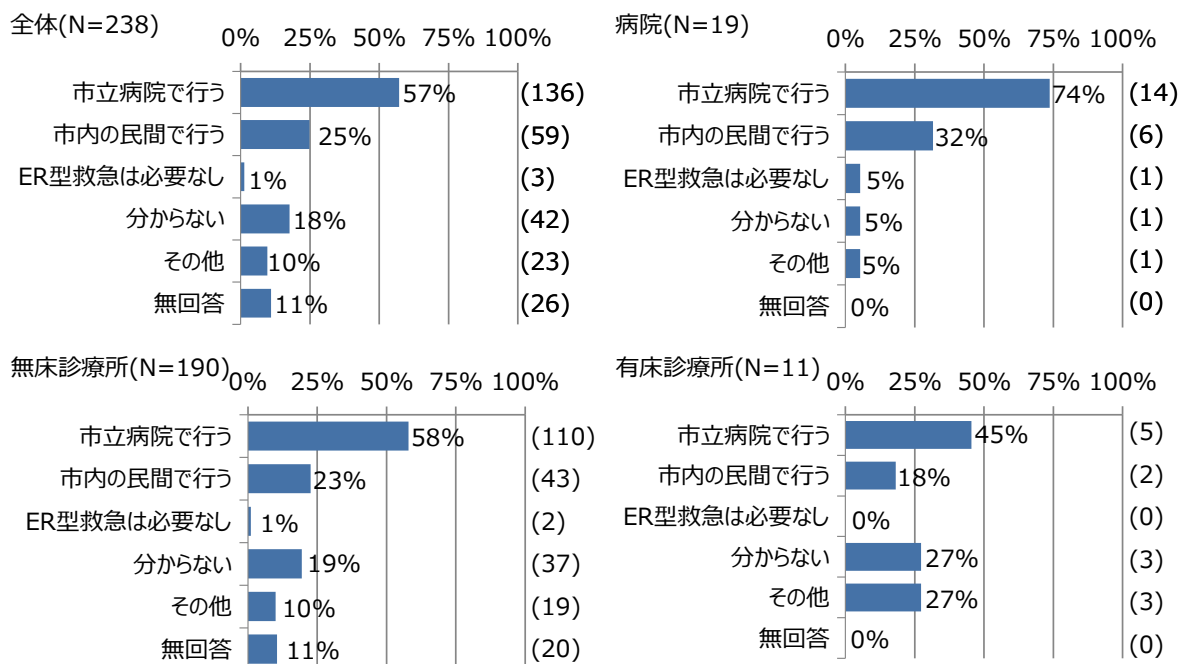
ア 17時以降の診療状況について

- ・診療所の半数以上が平日は17時以降も診療を行っており、診療終了時間は18時が多かった。
- ・対象患者は、診療所は通常の外来診療が、病院では救急搬送患者の受入れが中心であった。
- ・17時以降の救急搬送患者の受入診療科は、内科、外科、整形外科が中心で、産科、婦人科、小児科少ない状況であった。
- ・程度別では、軽症から中等症は診療所、中等症以上は病院が中心となり患者の受入に対応している。

イ 千葉市（医療圏全体）の課題及び市立病院に期待する機能について

- ・救急搬送時間、受入先の決定までの時間について課題と認識している医療機関が多い。
- ・特に土曜日の午後等の診療時間外については、診療科によって受入先が市全体として不足しているという意見も見られた。なお、診療時間外における救急医療の充実については、他の市民アンケートでも主な意見として挙げられており、市民・医療提供者側で課題認識が一致している事項も見受けられる。
- ・両市立病院に期待する機能は、夜間応急診療を中心とした診療時間外の救急診療に対するものが多い。
- ・また、脳神経外科や海浜病院で停止している心臓血管外科等診療科目の拡大に対する意見も寄せられた。
- ・現場滞在時間の長さ、病院交渉数の多さという課題への対応策の一つとして、ER (emergency room) 型救急システムの導入については、「市立病院で行う」という意見が約6割で最も多く、次いで「市内の民間病院で行う」という意見が約3割であった。（図1）
- ・ER型救急システムの導入は市民に対する貢献は大きいと考える意見が多くある一方で、市立病院が行う場合の財源や人材不足を不安視する声もあり、両市立病院の統合や他医療機関との連携や委託、当番制などの連携強化を求める意見もあった。
- ・市立病院以外でのER整備が望ましいと回答した医療機関では、民間病院や県救急医療センターの活用を求める意見、一方で市立病院にはERではなく小児科を中心とした対応を期待する意見もあった。

図1 ER型救急整備の必要性【複数回答】



(2) 在宅医療について

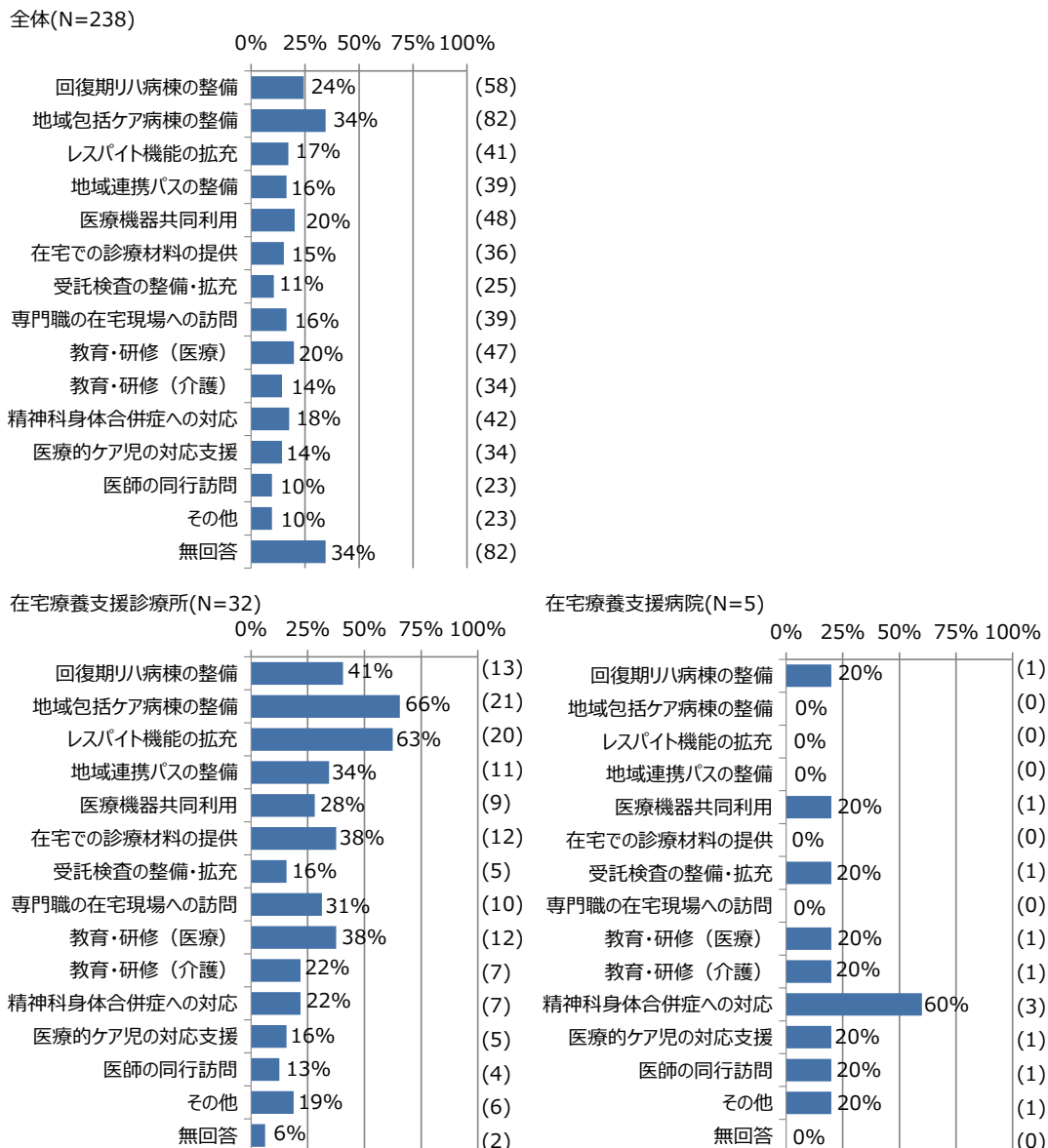
ア 在宅医療の提供状況について

- ・在宅医療を行っている回答した医療機関は、約3割であった。なお、在宅医療を提供する主要医療機関として、在宅療養支援病院・診療所があげられるが、同施設からの回収率は約5割と全体の回収率より高く、実際の提供状況よりも高い割合の回答となっている可能性がある。
- ・提供可能な在宅医療の処置としては、「糖尿病、高血圧、高脂血症、リウマチなどの慢性疾患のフォロー」、「在宅酸素の管理」、「褥瘡、潰瘍の在宅での治療」、「がんの在宅緩和ケアの提供」が上位を占めた。一方で「輸血の実施」と「小児在宅医療の提供(医療的ケア児への対応)」は、その専門性から対応医療機関は他処置に比べて限られている状況にある。

イ 両市立病院が後方支援を行う上で必要な機能について

- ・診療所からの回答では、回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟の整備が最も多く、在宅からのニーズ等に応えるサブアキュート機能を、より求めていると推察される。
- ・病院からの回答では「精神科身体合併症への対応」を求める割合が高く、精神科身体合併症の救急搬送患者について市立病院への期待が寄せられていると推察される。
- ・また、在宅療養支援診療所からの回答では、地域包括ケア病棟やレスパイト機能の拡充といったバックベッドの他、在宅医療での診療材料の提供や医療従事者への教育・研修を求める割合が高い。(図2)

図2 市立病院が後方支援を行う上で必要な機能【複数回答】



(3) 救急、在宅医療以外の地域医療について (図3)

- ・地域医療において、市立病院に充実を望む医療機能や診療体制として、「災害時における医療」、「感染症医療」の割合が高く、北海道胆振東部地震、千葉東病院の結核病床の休床といった近年の動向を反映していると考えられる。
- ・また、脳血管疾患や心血管疾患への対応を望む割合も高く、救急対応としての場合を含め、診療科が必要との意見もあった。
- ・両市立病院の現在の特色である精神科疾患、小児、周産期医療についても一定の割合を占めており、既存機能の強化への意見も多く見受けられる。
- ・自由意見では、海浜病院の老朽化に伴う機能再編・統合、救急や在宅医療等の機能強化に関するものが多い。また、医療機関同士の連携にあたって、空床や当直診療科等を把握できるシステム・データベースの必要性を訴える意見も見られた。

図3 市立病院に充実を望む医療機能や診療体制【複数回答】

